

研修だより

矢島小学校

21

05.6.29

コミュニケーション能力とは その2

広島県立教育センターの研究では、コミュニケーション能力について、次の3つの段階に分けて考えています。

- 受信 = 相手の考えを理解しようとする段階
- 発信 = 自分の思いを相手に伝えようとする段階
- 交流 = お互い同士心を通わせる段階

それぞれの段階の留意点は、次の通りです。

<受信のレベル>

相手が自分とは異なる感じ方や考え方をするという前提で、違いは違いとして認識し、相手の視点にも立って理解する柔軟な受容力を育てていくことが求められる。ステレオタイプで相手を見るのではなく、偏見を持たずに自然に受け止められる感性を育むことが大切である。

<発信のレベル>

自分なりの見方や考え方を持たせることが前提となり、積極的に発信していく態度を育てていくことが求められる。また、発信するためには、調べ学習などの準備が必要となるとともに、情報手段や表現方法をどのように選択するのかが問われ、自己選択・自己決定の学習の場として位置付けて学習内容化していくことが求められる。

<交流のレベル>

人とのかかわりを大切にする子どもを育てることが求められる。人が好きであるという資質を小学校時代に育てていきたい。そして、自分と異なる見方や考え方をする人とともによりよく生きていく態度を育てていくことが大切である。また、状況と目的に応じた場面的適切さが求められるので、交流の事前学習で何を準備すればよいか考えさせる活動を重視したい。

そして、次のように結論しています。

これらのことから、コミュニケーション能力とは、人と交流するために行われる、情報の受信・発信・交流活動における実践的な能力と捉えることができる。

「人との交流」とは、「相手との人間関係を築くこと」と置き換えることもできるでしょう。

ちなみに、文部科学省の井上一郎教科調査官は、「言語能力やコミュニケーション能力だけではなく、お互いの立場や考えを尊重し合い、人間関係を築いていく力、人間関係力が重要」と指摘しています。

コミュニケーション能力を育てることは、人権教育で学んだ内容の実践力をつけることである。

と私は考えます。